

# 東北地方太平洋沖地震発生後 1年間の地震活動との比較

Kato & Igarashi (2012):

F-netカタログ(NIED)から下記の地震タイプのみを抽出( 2237個 [M $\geq$ 4.0] )

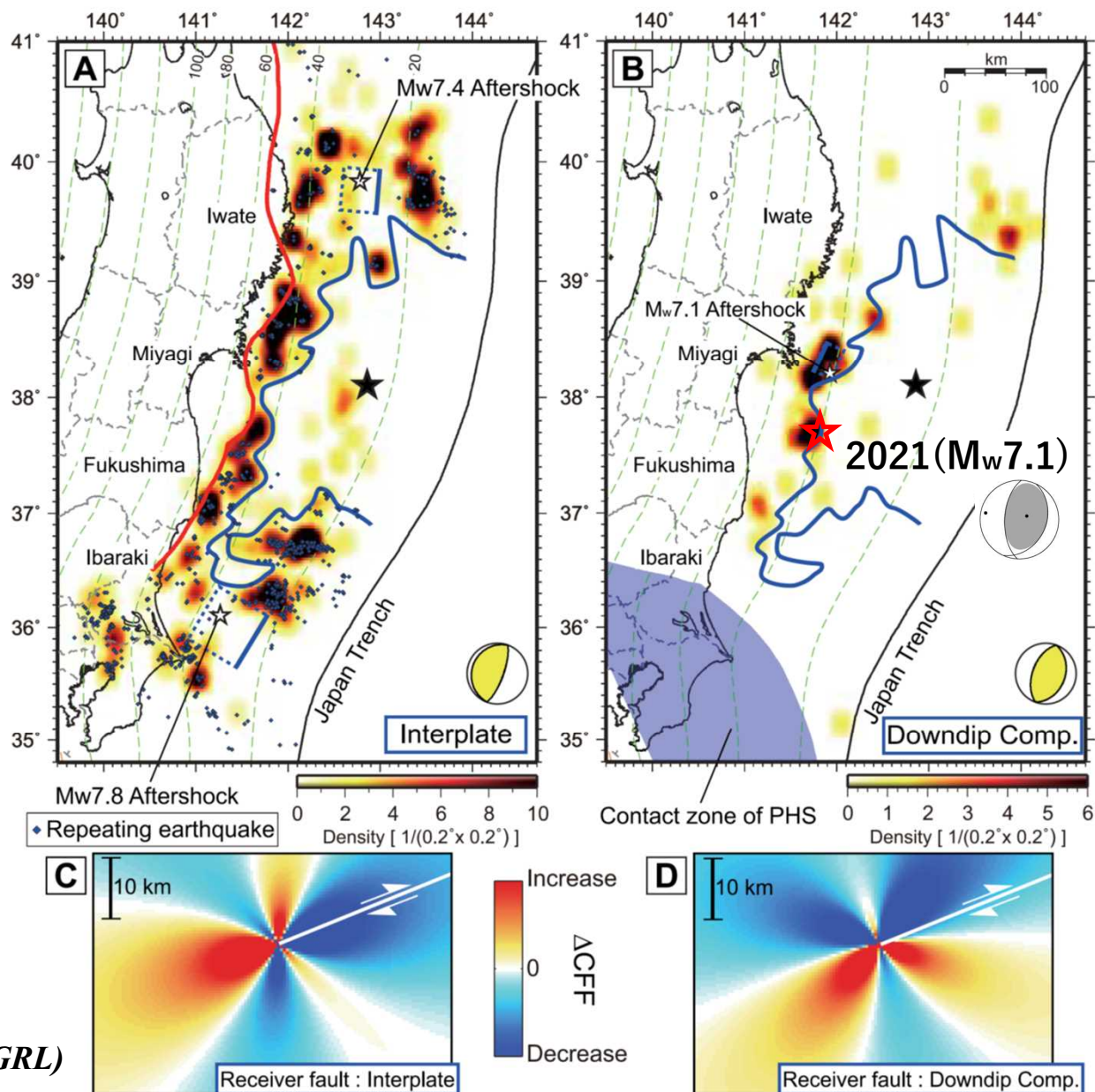
- ・低角逆断層型 (25%)
- ・Downdip Compression型 (4%)

2021年2月13日(M<sub>w</sub>7.1)の地震

- ・Downdip Comp.型の集中域付近で発生
- ・低角逆断層型も直上で発生
- ・2011年4月7日(M<sub>w</sub>7.1)のCMT解と類似

・東北地方太平洋沖地震による応力変化が生じた可能性のある領域

*Kato & Igarashi (2012, GRL)*



# 東北地方太平洋沖地震発生後の 余効変動(余効滑り+粘弾性変形)

Freed et al. (2017)のモデルによる緯度38度に沿った地下の応力場変化(東西断面図)

左列: 平均法線応力と変位場(矢印)

右列: Mises剪断応力と応力の震源球シンボル  
(鉛直断面に投影)

計算期間は3年間: 今回の地震の141.8度, 深さ約60 km付近は東西方向の圧縮変形が続いていたものと考えられる。

